

老舗名	象彦 B組 5班
Q.1	漆器作りの苦労は何ですか。
A.1	全てが手作業で作られる為、短期間での大量生産が不可能。そして漆器業界全体として職人さんの高齢化が進んでおり後継者が不足している。
Q.2	昔と今で売り方に変化はありますか。
A.2	昔は各家庭に漆器があり自分様を買う方が多かった。しかし今、特に東京では色々な会社が海外のお客様へのお土産として漆器を買って下さっています。
Q.3	今はどんな商品が人気ですか。
A.3	漆のカップを中心に普段から簡単に使えるものを中心に人気があります。お椀、トレイ等。
Q.4	どのような時期に一番漆器が買われていきますか。
A.4	漆器のシーズンは年末からお正月に向けて塗物が売れていきます。おせち料理のお重箱や屠蘇揃え。新しい器で新年を迎えたいという方が多いからだと思えます。(お椀、お皿、箸等)
Q.5	どのような人が漆器を買うのですか。
A.5	英語の大文字でJAPANは「日本」という意味ですが、小文字でjapanと書くと「漆器」という意味になります。このことから海外のお客様が漆器を見るととても感激され、日本のお土産としてお買い求め頂いています。しかし、この古くから日本にある伝統工芸品を日本人が漆離れしている所が残念ではあります。
Q.6	最高級の漆器はどれくらいの値段なのですか。
A.6	最高級の漆器に対して上限はありません。使用する最高級の材料(漆、金箔や蒔絵技術等)を使ったお品物を注文して頂ければ時間はかかりますがお作りできます。象彦のこの会場で展示している物の中で一番高い物は蘭陵王の棚、5000万円です。
Q.7	1年間で外国の方はどのくらい来店しますか。
A.7	海外のお客様は東京に仕事として訪れる方が多い為、全体の約10%。京都の本店は海外の方が観光として訪れる為、約40~50%が海外のお客様です。
Q.8	どのような工夫をして漆器を世界に広めていきたいですか。
A.8	近年はアジア圏(中国、台湾、韓国)を中心に海外の方の来日が多い。しかし普通にお品物を買うという時代は過ぎつつあり、今は体験価値を求める方が増えている。私達ができるものはお抹茶を飲んでもらう事や、漆器作りの体験をしてもらう事。
Q.9	創業からのこだわりを教えてください。
A.9	象彦の漆器は100年先も使える漆器作り。完成した時の見た目が変わりがなくても本物こそ時間が経っても良いものだと思得てもらえると思う。象彦の漆器は京漆器という塗物で、特徴は漆器の軽さ、丈夫さ、蒔絵の繊細さです。
Q.10	この先、どのように発展させていきたいですか。

A.10	今は携帯電話一つで情報を世界に発信できる時代です。画面ひとつで世界を相手に仕事ができます。しかし漆器は決して安い買い物ではありません。だからこそお買い求め頂く時には、しっかりと相手の方と向き合っ塗物をお勧めしたいと思います。話の中で塗物の価値を説明し、そのお客様の需要に対して満足し、納得して頂いて初めて購入に繋がると思います。漆器一つを作る為に多くの職人の思いが詰まっています。そして漆器はお客様にとって一生使える宝物です。だからこそ人と人との会話が大切だと思います。
------	---